

専門演習の「基本」・日程などの再確認

Oct. 5, 2012 加藤 厚

I 基本的姿勢

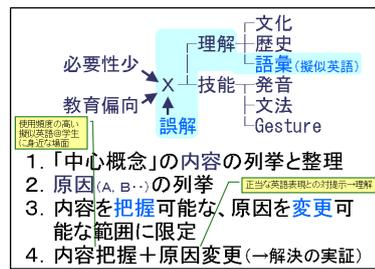
- ① 目標は卒業研究の遂行（≒卒業論文の作成）・・・部・サークル、勉強会、ボランティア活動・・・ではない。
- ② 「よい研究」とは成果の上がる研究・・・単なる「調べ学習」（あれこれ調べました）では不足。
- ③ 「成果」とは「問題解決（への接近）」・・・学術的・社会的に有意義な「仮説検証」も問題解決。
- ④ ③の達成には「解決可能な問題への取り組み」が不可欠・・・少なくとも要「解決方法の見通し」（↑論理的には「してみなければわからない」が↑）
- ⑤ ④の達成には「現状が把握可能」、「仮説が設定可能」、「仮説が検証可能」・・・などの条件が必要。

II 日程など

専門演習 I = 2年後期・主に文献研究→論述+発表・合評 [流れ図+樹状図]  
 ■「最適な問題設定・選択」に向けた“Tの横棒”の充実 = (諸側面を含む)全体像 → による因果的把握と整理検討→序(option)など@論文

専門演習 II = 3年前・後期・文献研究+質問紙/聞き取り調査→論述+発表・合評  
 ■「特定した問題」の位置づけ・原因・影響の範囲などの確認と文章・図表資料化  
 ①「問題の特定」とその解決につながる仮説設定に必要な「資料収集」  
 ②「問題とその背景」、「目的」とする解決、解決に向けた「方法」などの論述

専門演習 III = 4年前・後期  
 ■「解決策」の試行と効果（含今後の課題）などの確認と文章・図表資料化  
 方法の実施とその「結果」及び「考察」の論述  
 (↑例：模擬授業)



→主・副題@論文  
 →各章@論文(約 10 頁)

→各章@論文(約 10 頁)

III 実際的原則（基礎演習で既習のハズの・・・）

Oct. 12, 2012 加藤 厚

- ① 演習での検討を「積み上げ」るためには“印刷物”の作成・持参が望ましい（「話言葉」は空気の振動）。
- ② 印刷物には**題目※**及び**日付#**・**番号**・**氏名**などが必要（※理由：内容・目的の明示、# “経過”の確認）。
- ③ 印刷物の**主体**は筆者（=学生）の論（考え）、つまり「**本文**」※で、「**資料**」はその根拠・部品に過ぎない。  
 ※言い換えれば「本文は不可欠」（資料のみでは意味が不明確で意義も乏しい。）
- ④ 「資料」には**明確な作成者（個人/組織）**が**不可欠**。・・・理由：資料の信憑性は作成者の専門性に比例
- ⑤ 「資料」の**妥当性**は、研究主題との内容的・地域的・時代的「**近さ**」（類似性・関連性）に比例する※。  
 ※例：「現代日本のAという問題の解決」が主題なら、現代により近く、日本により近く、Aにより関連した資料ほどその妥当性は高い。
- ⑥ 「問題」は、**自らがその低減・解決に（将来）取り組むものであること**が望ましい。・・・少なくとも、現在及び将来その問題に取り組んでいる人に**有益な成果が期待できるものであること**が必要※。  
 ※理由：自ら取り組まないなら「無責任」、取り組んでいる他者に**有益でないなら「無意味」**だから。

IV “研究”の図示例：

